

《開催概要》

■開催日時

平成 31 年 3 月 22 日（金） 午後 5 時から午後 7 時まで

■開催場所

さいたま市市民活動サポートセンター 北ラウンジ

■出席者名

委員

金子賢治、内田淳、河野寛、三島由香、小島文一、山田洋、榎本高信、胤森文恵、有浦正子、加倉井範子、朝霧紀美江、島田正次、齋藤友之、永沢映、青柳勝久、神田正一

事務局

大畑真二、新藤達也、橘一郎、林良子、大石隆二、吉田直喜

■欠席者名

委員

藤本裕子

■議題及び公開又は非公開の別

議題

- ・ 来年度の事業計画案について
- ・ 情報の収集及び提供について
- ・ 利用者懇談会等における意見

公開又は非公開の別

公開

■傍聴者の数

0 名

■審議した内容

- ・ 来年度の事業計画案について
- ・ 情報の収集及び提供について
- ・ 利用者懇談会等における意見

■問合せ先

さいたま市市民局市民生活部市民協働推進課 電話番号：813-6400

■次第

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 来年度の事業計画案について
 - (2) 情報の収集及び提供について
 - (3) 利用者懇談会等における意見
- 3 報告
 - (1) 実施事業について
- 4 閉会

《会議録本文》

1 開会

座長： それでは皆様、定刻となりましたので、ただ今から、平成30年度第4回さいたま市市民活動サポートセンター運営協議会を開催いたします。初めに事務局より、本日の出欠状況と傍聴希望者の報告をお願いいたします。

事務局： はい。それでは事務局より、報告をさせていただきます。本日の出欠状況ですが、藤本委員より欠席の連絡を受けております。傍聴希望者ですが、今回の会議におきましても、不開示情報にあたる個人情報の取扱い等がないことから、公開予定として、ホームページ等で事前に広報しているところですが、現在、報道機関も含め、お見えになっておりません。また、本日の会議では、不開示情報にあたる個人情報の取扱い等もありませんので、公開とするということによろしいでしょうか。

座長： よろしいですか、ありがとうございます。それでは、会議途中の傍聴につきましても、運営上問題がない限り、適宜許可して誘導していただければと思いますので、よろしく願いいたします。続いて、事務局より会議資料の確認をお願いいたします。

事務局： はい。それでは、本日の会議資料の確認をさせていただきます。次第と資料1から資料7までございますが、資料5と6を除き事前に郵送させていただいております。本日、資料5と6を机の上にお配りしております。では、順番に確認させていただきます。

まず、「次第」。

続きまして、資料1「平成31年度事業計画(案)」。この資料は、次第の「2 議事」の「(1) 来年度の事業計画案について」で使用します。

続きまして、資料2「情報の収集及び提供について」。この資料は、次第の「2 議事」の「(2) 情報の収集及び提供について」で使用します。

続きまして、資料3「利用者からの意見」。この資料は、次第の「2 議事」の「(3) 利用者懇談会等における意見」で使用します。

続きまして、資料4「平成30年度ファンドレイジングセミナー 連続セミナー事業報告」、資料5「平成30年度市民活動サポートセンターフェスティバル事業報告」、資料6「市民活動サポートセンターセカンドライフセミナー事業報告」。これらの資料は、次第の「3 報告」の「(1) 実施事業について」で使用します。

最後に、資料7「さいたま市市民活動サポートセンター利用状況」ですが、特に大きな変化はないため、資料のみお示しさせていただきます。

本日の資料は以上となります。よろしいでしょうか。

座長： では皆さん、資料はお手元にあるようなので、次第に沿って進めていきたいと思っております。

2 議事

(1) 市民活動の支援について

座長： まず、次第の2(1)来年度の事業計画案について、事務局より、説明をお願いいたします。

事務局： それでは、議事の(1)来年度の事業計画案について説明させていただきます。

資料1をお願いいたします。資料はA4両面1枚とA3片面1枚となっております。まず3ページ、A3の資料を御覧ください。

こちらは、前回の資料に、第3回運営協議会で委員の皆様からいただきました御意見を追記したものでございます。分かりづらいですが、太字が追記した部分となります。

次年度、平成31年度事業を計画するにあたり、これまでいただきました御意見を参考とさせていただきますましたが、活動の場の提供、相談につきましては、これまで同様に公平公正な管理運営のもと適切に取り組んでまいります。

交流の促進及び学習の機会の提供につきましては、これまでの実績や委員の皆様からの御意見を参考に、新たな視点を踏まえ取り組んでまいりたいと思います。

それでは、資料をお戻りいただき、1ページを御覧ください。

まず、交流の促進についてでございますが、上段に記載のとおり、「市民活動の新しい担い手や次世代の市民活動の育成のため、市民活動への関わり方の違い、市民活動団体の性格、世代や価値観等、さまざまな目に見えない壁を超えて交流する『場』を提供する」ため各種イベントを開催してまいります。

実施事業といたしましては、「市民活動サポートセンターフェスティバル」を開催いたします。本年度は先日の3月2日・3日に開催いたしました。参加団体による実行委員会を組織し協働により開催いたしました。新たな広報媒体を活用してのPRをはじめ学生ボランティアによる運営を行いました。また、本年度初めて開催後の13日に参加団体と反省会を開催し、活発な意見交換を行ったところです。本年度の開催概要につきましては、後ほど改めて報告させていただきます。

平成31年度の取組ですが、団体同士の交流の促進として、分野別団体の更なる交流を図ってまいります。反省会でのことですが、イベント開催当日に参加団体同士でコラボしてステージ発表を行うなど、団体相互の交流が図られたとの御意見がありました。このようにイベントを通じて交流を図るきっかけづくりができればと考えております。更に、委員の皆様からも御意見をいただきました、市民活動団体と企業、他の自治体など異なるセクター間の交流も図ってまいりたいと思います。

また、新たな人材の確保として、来場者の増加のための広報、学生ボランティアについても取り組んでまいります。

続きまして、「小規模交流イベントの開催」についてですが、これまで、市民活動団体のPR、団体同士の交流を図るため、テーマに沿ったパネル展示を行ってまいりました。

平成31年度につきましては、交流の機会を増やすため、開催回数を増やしてまいります。また、七夕・クリスマス等の季節的なテーマのほか、御意見にありましたとおり、子育てや環境等のテーマ別での開催や、地区・地域的なエリアでの開催等を検討してまいります。

続きまして、学習の機会の提供についてです。資料2ページを御覧ください。

学習の機会の提供につきましては、「市民活動を継続していくためには、その裾野を広げ新たな人材を確保し、また、発展させていくための知識や情報の習得が必要である」ことから主にセミナーを開催いたします。

これまでもセミナーの開催にあたっては、一つは「市民活動へのきっかけづくり」、もう一つは「レベルアップ」を目的としてきましたが、平成31年度も引き続き取り組んでまいりたいと思います。

セミナーの開催にあたっては、目的に沿い、かつニーズに適したテーマ設定とし、対象を明確にし、参加しやすいセミナーとしてまいりたいと思います。また、より多くの市民・団体が

参加できるよう、センター以外の会場での開催も増やしてまいりたいと思います。

交流の促進事業と重なる部分もございますが、座学による講義形式のセミナーに合わせ、参加者同士、団体同士が情報交換や交流が図れる時間を設けるなど、様々な形式での開催を行うとともに、他機関とのネットワークが構築されるよう、国の動向や県の支援事業等、国や県・他の自治体の情報提供に取り組んでまいります。

最後に、ただ今平成 31 年度事業計画案について、主に交流の促進と学習の機会の提供の 2 点を説明させていただきましたが、本日は、この計画案に対する御意見を伺えればと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上で説明を終わります。

座 長： はい、ありがとうございました。4月からの事業計画案ということですが、これについて皆さんから何か御意見がございましたら、御自由に発言していただければと思います。

榎 本： 出席が、今年度最初の1回目と、最後の4回目だけで申し訳ないです。来年度のことについて、子育てや環境等をテーマに小規模交流イベントの開催という話がありましたが、先ほどエコ、エコの加倉井さんと情報交換をさせていただき、この運営協議会に参加して、他の団体のことを知ることができました。そういう意味で、個人的にも価値があったと思っています。小規模なイベントを開催したいというお話だったので、それぞれ皆さん活動をされていますが、いくつかの共通するテーマで開催していただければ、桜区はここから少し遠いですが、ぜひ参加したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

座 長： 他に御意見はございますか。アイデアなどあれば。

事務局には申し訳ないですが、去年と同じですね。ただ、回数などは極力予算の枠内で増やすなり、場所を増やすなりしていくという意志だけは伝わっているとは思いますが。项目的にはこのような書き方ですが、何となく分かったようで分かっていない感じですね。

榎 本： この間、桜区でコミュニティ会議と区民会議合同の会合があり、サポートセンターの方も来ていただいて、お話ししていただきました。その席で、出張講座のようなものもやろうと思えばできますというお話もありました。例えば我々桜区は、西区と共通の形で、センターの方に出前講座に来ていただくと、とても勉強になると思います。我々も長く活動はしていますが、組織運営については素人の部分もあるので、講座と、その後集まった方々で情報交換できるような時間があれば。また、ここサポートセンターがメインではあるけれど、各区に来ていただいて、例えば桜区だけというのは厳しいと思うので、西区と一緒に開催する、というのはいいと思います。共通認識を持てる部分はたくさんあると思うので。逆に岩槻区の方は遠く、西と東で交流がありそうでないので、何か一緒にやる機会があっても面白いかなと。自分が関係するテーマとしては、そんなふうに思います。

事務局： 貴重な御意見、ありがとうございます。今お話があったように、一昨日桜区の会議に御邪魔してきました。今年度は、10区全部は回れていませんが、岩槻区にお伺いした時には、資金調達が難しいということで、そのテーマでセミナーをやってもらえないかという御相談もありました。先ほど、的確にニーズに応えられるようにというお話をしましたが、皆様から御意見をいただき、岩槻区で開催するから岩槻区の団体だけを対象にするということではなく、参加できる団体を対象として開催はしていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

座 長： 今のは、事業計画で言うと2ページ目の学習の機会の提供に入るものですね。

事務局： はい。

座 長： 例年を下回らないという意識はあると思いますので、去年より悪くはならないという事業計画案と理解していただければ。あとは追加的に皆さんの方で、どういうものなら自分たちに都合がいいかということで、御発言いただければ。

永 沢： 指定管理や業務委託をしている事業、センター運営に対するアドバイスをするケースがありますが、回数や時期、スケジュールがある程度固まっているのであれば、例えば各区で開催するものとスケジュールを被らないようにするとか、この時期にこの事業を行うのであれば集客を手伝っていただくということを考慮して、内容と日程も含めてある程度落とし込んでしまったほうが良いのかなと思います。次年度に入っていない今日の段階でというのが難しいのは分かりますが、例年の形になっているのであれば、概ねのスケジュールは入れてしまった方が委員の皆さんと共有しやすいかなというのが一つ感じたことです。

もう一つは、この運営協議会自体をどう位置付けるかということです。どういうことかと言うと、今現在、NPO法を管轄していた内閣府が自治体に機能ややり方を移管しているので、さいたま市として市民活動やNPOの認証を含めてどう対応するのかということが任されてしまっているというのが実態です。例えば仙台市や兵庫県のように、NPOの認証をかなりシンプル化して、書類を整えてしまえば認証まで2週間以内に書類が届くというくらいに認証のスリム化をしまっている自治体もあります。後はクラウドファンディング等、各団体で行おうとしてもどういう形でやれば良いか、集め方も含めて分からない、そういったものをこのようなセンターが、勉強会だけではなく、クラウドファンディングを担っている事業者とタイアップして機会を提供していくという役割ですね。あと最近、資料の3ページ目の右下にあるような、団体の評価です。市民活動の評価については、団体側からすると何でセンターに評価されないといけないのかという意見がある反面、ソーシャルインパクトボンドというような、今までのようにお金を使って経理の報告をするだけではなくて、そのお金でどれだけの市民活動の効果が上がったか、検証もしていくことが必要だという考え方も出てきました。そのような指標をどうやってさいたま市の中で導入し普及するか、この運営協議会で議論するのか、別途の委員会を作るかは別にしても、協議をするのはセンターの一つの役割かなと思います。センターで実行するというだけでなく、本質的に市民活動やNPOをどうするのかという議論もしていく必要があると思っていますので、その部分をこの運営協議会の中で担っていくのか、別途になるのかは分かりませんが、そういった本質的な議論をしていく必要があるのではないかと感じています。

座 長： ありがとうございます。1点目の話については、毎年言っているものか悩んでいますけど、事務の面から考えると弾力性を持たせた方がやりやすい訳ですが、分かっていることであれば出した方が良いでしょう。永沢委員がお話ししてくれたように、例年あまり変わらないのであれば、予定として出して、各区の方にとって不都合がないように、日程調整がしやすい形で情報提供した方が良いでしょうと私も思います。2点目については、確かにおっしゃるとおり、NPO、市民活動をさいたま市としてどう考えるのか、この運営協議会が良いのか、その上の委員会が良いのか、正直何とも言えませんけれど、ただ意見を出すことは良いことだと思っています。そういう意味では、この資料の3ページの下の表の一番上、市民活動支援の方向性というのは正に関連する話なので、今年度最後の会議ですが、年度が明けたらどこかで、ここに挙がっていることや永沢委員がおっしゃったことも踏まえて、時間をとって議題として皆さんで意見交換をしたいと思っていますので、事務局の準備も必要になるかもしれませんが、心づもりをお願い

します。

事業計画案については、他に御発言ある方はいらっしゃいますか。

内 田： 交流の促進については非常に重要だと思っているので、どんどんやっていただきたいと思います。パネル展示のような形でやっているのは知っていますが、パネル展示以外の小規模交流イベントをやる可能性はありますか。

座 長： 何か想定はしていますか。

事務局： 今の段階ではありませんが、なぜこの案を皆様にお示ししているかという、このような事業を行うのであればこう実施すれば有効ではないかといった御意見もいただきたいと考えております。このような形であれば今の体制でもできるのではないかといったアイデアがありましたら、ぜひ教えていただければありがたいと思います。

内 田： パネル展示は、団体同士の交流としてどこまで有効なのかとは思っています。それほど顔を合わせないかなど。何年か前に参加しましたが、隣のパネルを展示している人とたまたま話すくらいにしかならないので、もう少し交流を目的としたものやってもいいのかなと思います。参考までに、前回の運営協議会でチラシをお配りしましたが、私たちは市民活動サロンというものを行っています。今年はあるまり場というテーマで行いましたが、居場所づくりを地域でやっている団体を4団体呼び、それに関心のある人、団体に集まってもらいました。全部で20人強の参加者でしたが、ワークショップを行い、非常に盛り上がりました。そのような感じで、単純にこのテーマについて関心がある人集まってください、お話ししましょう、でも良いと思いますし、そこで参考になる人が講演とまではいなくても、事例報告のようなことをやってもらって、それをテーマに話してみましよう、という形でも結構盛り上がり色んな人が楽しみながら勉強になる、面白い取り組みではないかと思えます。実施する場合には協力しますので、そういうのも一つのアイデアかなと思います。

座 長： ありがとうございます。他には何か御意見ありますか。よろしいですか。

(2) 情報の収集及び提供について

座 長： それでは続きまして、次第の2(2)情報の収集及び提供について、事務局より説明をお願いいたします。

事務局： それでは、議事の(2)情報の収集及び提供について説明させていただきます。資料2を御覧ください。

前回の運営協議会では、サポートセンターの業務の中から、情報の収集及び提供について、皆様から様々な御意見をいただきました。今回は、このテーマについて取り上げ、中でもWEBサイト「さポット」に焦点を当てて、皆様から御意見をいただきたいと思えます。

資料にお示ししましたとおり、現在、サポートセンターでの情報の収集・提供の主なツールとしては、WEBサイト「さポット」、市民活動団体の発行物、市民活動に関する出版物等を配架している「資料閲覧コーナー」、市民活動に関する情報の検索や資料作成をするための「パソコン・コーナー」、市民活動団体がイベント情報や会員・仲間募集の周知など、活動についての情報発信をするためにポスターを掲示したり、チラシを配架する「コミュニケーションボード及びパンフレットラック」、そして、各区の市民活動ネットワークの情報を周知する「各区市民活動ネットワークPRコーナー」があります。

それぞれ、情報の収集及び提供にあたり重要なツールであると考えていますが、前回の運営

協議会においても、市民活動におけるWEBサイト活用について御意見をいただき、これからますます重要性が高まると思われるため、本日は、WEBサイトさポットの運用や機能の改善について、皆様から御意見をいただきたいと思います。事務局として、現在のさポットの契約が平成33年度までとなっており、運用や機能の見直しに当たってはシステム関係の部署との調整もあるため、来年度中には見直す内容を取りまとめたいと考えています。そのため、今回だけでなく来年度も御意見をいただくテーマになると思いますが、よろしく願いいたします。

次に、さポットの現状について説明させていただきます。2月末現在、WEB団体登録数は443団体です。この登録は、通常の団体登録とは異なり、あくまでWEBサイト上での団体の活動紹介やボランティア募集等、情報発信の場を提供するものです。

サイトの構成について、別紙1として画面のハードコピーを添付しましたので、御覧ください。まず1枚目がトップページです。上から、サポートセンターからのお知らせ、次にイベントや支援情報などの新着情報、その次に団体の活動報告となっています。

さポットにWEB登録をしている団体を探したい場合には、左側の一番上、「団体を探す」をクリックします。2枚目を御覧ください。クリックすると、この画面が出てきます。ここで、活動カテゴリや団体名で検索をする形になっています。

次に3枚目を御覧ください。団体を検索すると、この画面になります。ここから、団体の基本情報や、活動報告を見ることができます。このページの左下に、活動報告とありますが、ここに、団体が今まで掲載した活動報告の記事がまとめられています。

次に4枚目を御覧ください。活動報告の記事を1つクリックしてみると、このように詳細を見ることができます。

このような形で、団体それぞれのページは構成されています。

1ページ目に戻り、さポットのアクセス数及び主な掲載情報数についても、簡単に表にまとめました。平成30年度は4月から2月まで、参考として載せた29年度は4月から3月までの件数であるため、1ヶ月分の差はありますが、どれも減っているか、ほぼ横ばいの状況です。

WEB登録団体やアクセス数、掲載情報数が増えない理由としては、独自にホームページを持つ団体が増えた、FacebookなどSNSで情報を発信するようになったということが考えられます。そのようなツールと比較すると、情報を掲載する団体にとっても、情報を探す方にとっても、今のさポットはあまり利用するメリットを感じられないのではないかと思います。

今後、情報を掲載する団体にとっても、情報を探す方にとっても便利で使いやすいWEBサイトとするため、運用や機能の見直しを行っていきたいと思っております。委員の皆様からも、このような情報を掲載してほしい、このような機能があれば良い、といった御意見をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

説明は以上となります。

座長： はい、ありがとうございました。今説明がありましたが、最後に担当者から話があったように、アクセス件数を増やしたいので良いアイデアくださいということで、ぜひどんどん御意見を出していただければと思います。

内田： 私は、特に若い人が多い団体ではFacebook中心にやっているところが多いかなという印象を持っています。私はインスタグラムはやっていないので、もしかしたらそちらの方が

有効ということもあるかもしれませんが、そういったSNSとどう向き合っていくか、サポートセンターがSNSをやるべきかどうかという話とは別に、市民活動団体のSNSとどう関連づけるかというのは重要になってくるかなと思います。そんなに良いアイデアがある訳でもないですが、サポートの中で登録団体のSNS、Facebook、Twitterなどを紹介したり、団体が更新したらサポートの方も更新されるといった機能があれば良いのではと思います。

座長： 正直見づらいですね。アクセス件数はもちろん増えた方が良いのかもしれませんが、そこを見れば必ず有益な情報を提供してもらえる、適切な情報が手に入るということが重要だろうと思います。後は、探しづらになると、諦めてGoogleで検索した方が早いというケースがあるので、わざわざこのトップページを見る必然性がないですね。WEB上にサポートというホームページを作ってそれを活かすためには、見せ方だけではなく何かしらの魅力が必要だと思います。

河野： 私も防災関係をやっていますので、前回地域防災WEBの話を見せてもらいましたが、ここに掲載する情報を、それぞれの団体が誰に向けて発信しているのか、というのが重要だと思います。一般市民の方に読んでもらうため、理解してもらうために載せているのか、自分たちの仲間と共有したいから載せているのかで全然違ってきます。おそらくこのアクセス件数を見ると、団体・組織を構成している皆さんの共有でしかないのではという気がして、本当に一般市民の方が活動を知りたいという思いで探していればもっと件数は増えると思います。情報の載せ方や管理の仕方について、何を発信するのか、どういう目的で掲載するのかなど、何か規約はあるのでしょうか。それとも自由に情報を載せていいのでしょうか。その辺りですごく変わってきてしまうと思います。私たち防災関係の団体は地域で色々な活動をしていたので、地域防災WEBにも地域の特徴が全部出て、自分たちの知りたいことが全国的に分かるんですね。情報の取扱い方や管理の仕方が、アクセス件数にも相当影響するのではないかという気がします。

座長： 事務局に伺いますが、そもそもこのWEBサイトは、どのような考え方で作ったのでしょうか。

事務局： まずサポートセンターの取組みやお知らせなどの情報発信の場所としての機能、そして、団体のデータベース機能も備えています。団体については、登録する際には活動エリアや活動分野等を登録していただいています。資料の別紙1の1枚目、「市民活動サポートセンターに登録している団体はこんな活動をしています」というところがあると思いますが、こちらに関しては団体が日頃活動している内容について、データを作り掲載してもらっています。先ほど河野委員からお話がありました、同じジャンルの方達に見てもらいたいのか、広く市民に見てもらいたいのかという点では、区別はありません。団体としてこのような活動をしたという情報や、会員の募集する記事が、活動報告の欄に掲載されます。また、トップページの団体の並びですが、情報が更新されると、その新しい情報を掲載した団体が表に出てくるという形になっています。

座長： 団体のデータベースを作って、団体の相互利用が進むようにという意図でこのホームページがあり、プラスして、それを見て市民の人が活動をしてくれるような情報も掲載しているということですね。皆さん実際に使ってみて、どうでしょうか。私は2、3日前にたまたま見る機会がありましたが、スクロールしないと下まで見えず、一つの画面で全部見られませんでした。そもそも画面の中に小さくしか映らず、私にとっては文字が多すぎて、読むこと自体が大変で

した。プリントすると1ページがこれだけの量ですが、この半分程度が画面で見られれば一番良いと思います。皆さんは、使ってみてここが良い、ここが悪いといったところはありますか。そもそもあまり使っていないですか。

三 島： 団体や法人を探す時には、さポットから入るというより、直に団体の名前で検索してしまいます。市民活動サポートセンターのサイトであればセンターが何をしているのか、ここでどういう活動をやっているのかがまず探せて、そこから他の団体につながっていけばいいなと思います。色々な分野の団体があるので、ここでどんなイベントが行われているか、探すきっかけになればいいですね。団体はホームページで細かい情報を持っているので、簡単なデータベースであれば、もっと広い情報を探せる方が良いと思います。せっかく443団体も登録しているのであれば、自分にとって必要な団体を探すきっかけになると思うので、まず見てもらうことがその先につながると感じました。

座 長： 他にはどなたか御意見ありますか。先ほど事務局から話がありましたが、今のホームページの画面を、簡単な修正はできるのですが、こう改善したいと思っても、すぐにはできないんですね。そのできない状態が33年度までということですから、平成34年3月31日まではこのままですね。それをより良くしようとする、今年中には案を出して、担当課と協議をして実際にシステムを変更してもらうという段取りになるようなので、すごく時間がかかります。企業ではないためすぐにはできないので、そういう意味では、今皆さんから、こうした方が良い、あるいはここは駄目という指摘があれば、検討する素材になると思います。何でも、思いついたことで結構なので、もし御意見があれば。

永 沢： 最初にこのアクセス数を見た時に、年間の数字だと思わないくらいに少ないなと思いました。このサイトの目的を考え、閲覧数を増やすのであれば、得意な民間がやらない限り絶対に無理だと思います。得意な民間とはどういうことかということ、どうすればアクセシビリティを高められるか、どうすれば見やすいかということを知っているということです。民間であれば、例えばSNSとリンクをして、色々な投稿が寄せられます。市が直営でやっている限りは、この投稿が良いかどうかをチェックしなければならず、変にSNSと連動させてしまうと、乱暴な投げかけもあるので様々な投稿があり得るSNSなどはリンクができないということになります。先ほども御意見がありましたが、本来は市民活動サポートセンターのホームページであれば、団体の紹介よりも先に、例えば補助金やイベント情報等、センターとしての色々なメニューや、何をやっているかということがあった方が良いです。それから閲覧数が増えないと新着情報で投稿してもなかなか集客につながらず、結果的に投稿しなくなってしまいます。そのため、これをみんなが見るサイト、多くの団体が投稿をするサイトにするためには、SNSと連動させるなど、民間が自由な投稿も含めて運営していかない限り難しいので、いずれ34年4月以降に向けて、委託した方が早いかなというのが本音です。直営でやるとこのような感じになっている自治体が多く、ホームページを持ってない団体もここでホームページ代わりに情報を掲載できるというメリットがあるくらいの使い方に留めるという感じになっているというのが率直な感想です。

座 長： 思ったより重宝なツールでありながら、いざ使って効果を上げようと思うと、難しいですね。この議題は今日に限らずまた次の時も、アイデアがあればいただければと思います。他にどなたか御発言ございますか。

金 子： 443団体で49,597件のアクセス数ということですが、このサイトを見ているのは、ウェブ登

録団体に所属する人で、自分の団体のページを見ているのか、それとも一般の人が、例えばこれから何かやろうと考えて見ているのか、どちらが多いのかなと思いました。私は、ある団体の事務局の人から、件数が増えるからサイトにアクセスしてほしいと言われたことがあります。このデータを見て、団体の人からそう言われたからたまに見ようか、という人が多いのか、それ以外の人ほどの程度なのか、と思いました。

永 沢： この件数は相当少ないので、団体内部の方が見ているのがほとんどだと思います。

座 長： 私も、関係者が、自分の団体の記事が掲載されたから見るというように、ごく限られていると思います。

金 子： このサイトが、ある程度団体同士のつながりや交流のきっかけになっていけば良いと思います。私は、約 50,000 件のアクセス数が多いのか少ないのか分かりませんが、一般市民の方はこのさポットというホームページを知らないし、やはりアクセスは難しいのかなと感じました。

三 島： さいたま市に子育てWEBというサイトがありますが、このサイトは、新着情報を掲載してもすぐに見えなくなってしまうくらい投稿数が多く、アクセス数も高いです。区ごとに保育園、幼稚園、児童センター等の情報が網羅されていて、ネット上で子育て相談もできる形になっています。さポットも、相談を受ける側は大変ですが、市民活動の相談ができたりとか、私は推進委員会でマッチングファンドの審査をさせてもらっていますが、自分がイベントをするときに行政のどこの課とつながれるかということを検索できればいいなと思います。行政との協働について情報が載っていれば、より検索したくなるし、内容を見たくなると思います。

小 島： 443 団体もあると、どちらかというデータベース化して、仲間内で検索するツールになっているとは思いますが、使う方の側からすると、子育てについて知りたい、老人福祉関係について知りたいと思って、そういう情報を横一線で見ると、さポットは見やすいとは思えないですね。443 団体あり、多くの団体がそれぞれ各区の市民活動ネットワークに入っているのではないかと思います。そちらでもホームページに登録することができたはずですが、そういう意味では情報の重複があって、しかも使いにくいと感じるので、その辺りを整理して、情報を見たい人にヒットするような構造に変えられないかなと思います。例えばイベント中心でも良いのですが、サポートセンターでは今このようなことをやっています、各区ではこのようなことをやっていますということが流れで検索できるようなものになれば良いと思います。見沼区では、イベントをやる時には情報を登録できるようにしています。情報の内容は、区の職員が登録できる範囲なので、このようにきれいな形ではないですが、でもその時々情報が掲載されています。そのような区のネットワークと連携すれば、もう少しヒットしやすいものができるのではないかなと思いました。

加倉井： 私たちの団体は、記事を書かなければいけない義務があると思って載せています。登録をしたから報告はしなければいけない義務だと思っていますが、実は報告よりも予告を載せていただきたいというのが本音です。予告であればアクセス数も増えると思います。例えば、私たちは観察会をやっていますが、夏場は参加者が多いですが、冬になると人間も生き物なので静かになってしまったり参加者も少なくなってしまう。予告をここに掲載できれば活用されると思いますし、私たちも助かります。

座 長： 確かに、情報は結果情報だけではなくて、予告情報も重要ですね。

他に御意見はございますか。すぐに対応できそうな御意見もあったと思いますし、広報は本当に難しいもので、今日すぐアイデアを出すように言われても大変だと思います。何のために

するのかというところがしっかりしていないと、やっていくうちにぶれてしまうので、このホームページのあり方も引き続き検討していきたいと思います。

他に御意見がなければ、次の議事に移りたいと思います。

(3) 利用者懇談会等における意見

座長： では続いて、議事の(3)利用者懇談会等における意見について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局： それでは、議事の(3)利用者懇談会等における意見について、説明させていただきます。資料3「利用者からの意見」を御覧ください。

今回は、1月から2月までの窓口対応、利用者アンケート及び2月20日に開催いたしました利用者懇談会での御意見から、主なものを載せています。

多くの御意見をいただいておりますが、今回は、主に利用者懇談会での内容を取り上げたいと思います。前回の運営協議会でもお話をしましたが、2月20日の利用者懇談会は、「貸出機材について」をテーマに開催いたしました。

7ページを御覧ください。参加者の皆様からは、まず現状に対して「サポセンにはどういった機材があるのか、知られていないのでは」「サポセンの運営が始まったところは団体で用意が難しく貸出機材としたものも、安価になり団体独自で用意できるようになった」「プロジェクターとパソコンがあれば映像を流せるので、DVDプレーヤー系の機材の必要性は疑問がある」等の御意見をいただきました。サポセンの設立当初に例規で規定した貸出機材の内容が現在まで変わっていないこともあり、時代の流れに即した見直しが必要と感じています。

今後、このような貸出機材があれば良いという希望については、パソコンそのものやソフトウェア、多目的展示コーナーで使用できるフレームやプレート、ピンスポット照明等が挙げられました。この点については、例えば貸出機材利用団体にアンケートを取るなど今後利用者からの御意見を集め、検討していきたいと思います。

また、貸出機材ではありませんが、印刷作業室の機器についても御意見をいただきました。9ページを御覧ください。こちらでは、「大判の印刷物をカットするための長い定規とマットがあると良い」「折り機をもう1台用意して、予約を可能にしてはどうか」「自動で中綴じをしてくれるコピー機があると良い」等の御意見をいただきました。長い定規とマットについては、懇談会の後購入し、印刷作業室でお使いいただいております。折り機や中綴じのコピー機については、現状では導入をしなくても問題はないと考えています。

今説明をさせていただいたように、利用者懇談会では貸出機材について様々な御意見をいただきましたが、さらに利用者の皆様からの御意見を集め、今後の貸出機材の内容等を見直していきたいと思います。委員の皆様からも、これまでの活動の御経験から、このようなものがあると良い、というような貸出機材に対しての御意見を伺えればと思います。

説明は以上となります。今説明をした内容以外でも、この資料の中で気になる内容や回答、対応がございましたら、御意見をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

座長： 今の説明について、皆さんから質問や御意見があればいただければと思います。気になる点があればそれについての御意見でも構いません。ちなみに、前回と比較して内容に大きな違いはありますか。

事務局： 大きな違いはありません。

座 長： この資料は文字だけなので、先ほどのホームページもそうですが、ちょっと分かりづらいですね。具体的に、その月でどのような内容の意見が窓口で出されているのかを見える化しようということで、文字だけではなくグラフ等で分かるような形で委員の皆さんに情報提供できるように、事務局に検討をしてもらっています。数字やグラフで見られるような資料を今後は提供していきたいと思っています。

では、特になければ次に進みます。

3 報告

(1) 実施事業について

座 長： 続きまして、次第の3（1）実施事業について、事務局から説明をお願いします。

事務局： それでは、次第の3（1）実施事業について、説明させていただきます。

まず、資料4「平成30年度ファンドレイジングセミナー 連続セミナー事業報告」を御覧ください。

このセミナーは、埼玉県共助社会づくり課との共催で、NPOなどの地域活動実践者に、寄付や助成金、クラウドファンディングといった様々な資金調達の手法や広報戦略などを学ぶ機会を提供することで、活動を支えるためのファンドレイジング・資金調達力の向上を図り、組織基盤やネットワーク強化を促進することを目的として行いました。

第1回目は9月12日、ファンドレイジング・ラボ代表の徳永洋子氏を講師にお迎えし、「寄附を通じたファンの増やし方」をテーマに実施しました。講義の前半は、潜在的な寄附者から遺贈・大口寄附に至るまで、団体の寄附者を階層化して分析する「寄附者ピラミッド」という考え方について解説していただきました。後半では、参加者それぞれが関わっている活動団体の寄附者ピラミッドを作成するワークを行い、各層の支援者にどのように働きかけをしていけばよいのかを、参加者同士意見交換しながら一緒に考えました。

第2回目は10月17日、NPO法人ハンズオン埼玉理事の吉田知津子氏を講師にお迎えし、「地産地消系チラシの創り方」をテーマに実施しました。まず広報を行うにあたっての心構えや、しっかりと伝わる広報のために必要なことを、ワークを交えながら学びました。終盤には、参加者それぞれが与えられたイベントの情報を1枚の紙に落とし込み、実際にチラシを作成しました。

第3回目は1月18日、choinacaの矢口真紀氏を講師にお迎えし、「地域を元気にする発想力」をテーマに実施しました。まず共感を生むイベント企画のポイントについて講義していただき、その後グループに分かれて、テーマを決めてアイデアを出していくワークショップを行いました。

アンケートでは、3回とも回答した方ほぼ全員が「非常に参考になった」「参考になった」と回答しており、自由記述でも「運営するにあたってのヒントを得られた」「楽しく学ぶことができた」「大きな刺激を受けた」といった前向きな内容が多く見られました。各回とも、講義だけでなく具体的なワークを取り入れることで、知識の向上だけでなく参加者同士のつながりを作る機会ともなり、組織基盤やネットワーク強化を促進するという目的は達成できたと考えています。今後も県と協力し、このような機会を作っていきたいと思えます。

事務局： 報告者交替します。続きまして、次第3（1）実施事業についてのうち、さいたま市市民活動サポートセンターフェスティバルについて報告いたします。

資料5「市民活動サポートセンターフェスティバル事業報告」を御覧ください。こちらは先日の3月2日、3日に開催しました当センターのフェスティバルの報告をするものとなります。

まず、フェスティバルへの参加団体数ですが、ブース・ステージ参加団体が9団体、ブース参加団体が23団体、ステージ参加団体が11団体、合計で43の市民活動団体の皆様に御参加いただきました。これは昨年度と比べ9団体の増加となっております。

また、市民広場会場では、さいたま市CSRチャレンジ企業が3団体、ニュービジネス大賞参加企業が5団体、計8団体に御参加いただきました。

来場者数としては、9階会場のみを集計ですが、2日間で6,022名の来場があり、昨年度に比べ約143人の来場者数増となっております。昨年度と比べると微増という形になっておりますが、今回は3日が雨だったことも影響していると考えております。

続いて2ページを御覧ください。今年度も参加団体からより多くの御意見をいただきフェスティバルに反映するため、全参加団体を実行委員とする実行委員会を組織し開催いたしました。こちらは3回実施し、「来場者の回遊性を高めるための手法」や「効果的な広報活動について」等を話し合いました。

その中でも集客の話し合いは活発に行われ、広報に関して、今年度は浦和駅や周辺駅、サポートセンターが入っているストリームビルのエレベーター内へのポスターの設置、ラジオ、テレビ、地域コミュニティ誌などと広報媒体も増やしております。

次に、スタンプラリーの実施状況について報告します。今年度も実行委員会の中で、来場者の回遊性を高めるため、スタンプラリーを実施することに決まりました。今年度は1階の会場で2枠、9階で5枠、10階で3枠という形をとり、合計8個集めるとクジ1回、10個すべて集めるとクジ2回という形で実施いたしました。景品としては400個用意していましたが、好評につき3日の15時頃にはスタンプラリー終了となりました。

続きまして、アンケート結果について御報告いたします。

4ページを御覧ください。こちらは参加団体のアンケートです。45団体中40団体からアンケートを回収しております。

Q3の「今回のフェスティバルはいかがでしたか？」という問いに対し、満足が13団体、おおむね満足が17団体、普通が7団体、やや不満足が1団体、不満足が1団体となっております。満足の理由としては、「他団体との連携及び他団体から刺激を受けることができた」「情報交換等に役立てられた」といった御意見をいただきました。逆に不満足の理由としては、「集客効果」といった御意見をいただいております。

続いてQ4の「次回（次年度）にフェスティバルが開催されたら参加しますか？」との問いに対しては、「する」が34団体、「しない」が1団体、検討中が5団体となっております。「しない」と回答した団体についても、「予定がまだ分からないため」といった理由でした。

続きまして9ページを御覧ください。こちらは来場者アンケートで163件の回収数となっております。

問4の「今回のフェスティバルはいかがでしたか？」という問いに対しては、「とても満足」が74件、「おおむね満足」が52件と約8割を占めました。その理由としては「自分の知らなかったことを学ぶことができた」といった御意見や「子どもと一緒に楽しむことができた」といった御意見をいただいております。逆に不満足の理由としては、「若者が極端に少ない」といった御意見をいただいております。

最後となりますが、今年度初めての試みとして、フェスティバルの反省会を開催しました。その中で、平成 28 年度から実施しているフェスティバルについて、年々良くなっているとの御意見を多数の参加団体よりいただきました。また「こうしたら集客できた等の各参加団体のノウハウを、次の参加団体へ伝えていった方が良い」「雨天時の対応についても考えた方が良い」といった御意見もいただいております。来年度以降に生かせる御意見を多数いただいておりますので、アンケート結果と併せて、今後さらに良いフェスティバルになるよう取り組みたいと考えております。

事務局： 報告者交替します。次に、資料 6 「市民活動サポートセンター セカンドライフセミナー事業報告」を御覧ください。

このセミナーは、サポートセンターの「市民活動の入口の機能」及び「学習の機能」に基づき、市民活動の面白さや大切さを知ってもらうためのきっかけづくりと、シニア層を対象として、他の世代とともに社会の重要な一員として生きがいを持って活躍できるよう、市民活動への参加を促進するとともに市民活動の活性化を図ることを目的に実施しました。

昨年度もセカンドライフをテーマにセミナーを開催しましたが、今回はより多くの方に御参加いただけるよう、3月12日には浦和会場として市民活動サポートセンターで、3月15日には大宮会場として大宮区役所で、同じ内容のセミナーを2会場で行いました。参加者数は、2ページ目に記載したとおり、各会場30名の定員に対し、浦和会場は30名、大宮会場は21名でした。昨年度は32名だったので、2会場としたことは、やはり多くの方が参加しやすい形であったと思います。

内容は、まずさいたま市高齢福祉課職員から、セカンドライフ支援についてさいたま市がどのような事業を行っているかをお話しし、その後、体験談発表を、ボランティアの分野はシルバーバンク、学習の分野はシニアユニバーシティ、仕事の分野はシルバー人材センターと、それぞれの活動経験者にしていただきました。皆さんそれぞれ、活動を始めた経緯や現在の活動の内容、活動を通じて感じたこと等をお話しいただきました。

その後の交流会は、講師、体験談発表者の皆さんがグループに分かれた参加者のテーブルを回って、質問を受けたり、参加者にアドバイスをするなど、近い距離でお話できる時間としました。どちらの会場も、お話が盛り上がるか不安もありましたが、参加者の皆さんが積極的に講師たちに質問をしたり、参加者同士でも話をする様子も見られ、一方通行ではなく主体的に参加したと実感の持てるセミナーになったのではないかと思います。

3ページ以降のアンケート結果の「Q2 セミナーの内容についてお伺いします」の項目では、満足、やや満足と回答した割合が、講演では8割、体験談発表では9割、交流会では7割を超えました。やはり複数の分野に渡っての具体的な体験談は、参加者がセカンドライフをイメージするうえで参考になったと思われ、市民活動の面白さや大切さを知ってもらうためのきっかけづくりという目的は概ね果たせたのではないかと考えます。

6ページの「Q4 これから活動を始めるにあたり、どのようなサポートが必要、またはあると良いと思いますか」との問いでは、「活動をしている団体の情報の提供」との回答が一番多く、次に「セミナー等、知識を習得できる場」、そして「すでに活動をしている人との交流の場」の順となりました。このアンケート結果や、会場がオープンスペースで落ち着かなかった、時間が短かった等の運営面での御意見も踏まえながら、来年度以降のセミナーの企画を検討していきたいと思っております。

実施事業についての説明は以上になります。

座 長： はい、ありがとうございます。皆さんから何か質問はございますか。

内 田： 資料4のファンレイジングセミナーについて、私も参加したかったなと思うくらい良いイベントだと思うのですが、素朴な疑問で、ファンレイジングの意味から考えると、1回目はその通りですが、2回目、3回目はいまいちファンレイジングっぽくない気がします。これは、例えばファンレイジングセミナーをやろうという話は決まっていて、この3回をどうしようという感じでこのような形になったのでしょうか。どういう経緯だったのかなと思ったので。

座 長： タイトルがそうになっていますからね。説明はそうじゃなくなっていますけれど。

事務局： 第2回の運営協議会で報告をさせていただきましたが、一番最初は、7月26日に「ファンレイジングセミナー『みんなで考える市民活動とお金のはなし～共感の輪を広げるファンづくり～』」を開催いたしました。これを受けて、今日報告をさせていただいた3回の連続セミナーを開催したという流れになっています。全部をまとめて、ファンレイジングセミナーとして開催をしたという形になっています。

事務局： 御指摘いただきましたように、1回目は確かにファンレイジングの内容ですが、2回目、3回目は少し傾向が異なります。ただ、トータルで考え、市民活動団体に向けて、お金だけではなくて、広報等も含めての支援になるようなセミナーにしたいということで、色々な内容を入れたという形になっています。名前と内容が異なり、紛らわしくて申し訳ありません。

内 田： 責めているつもりはないのですが、ファンレイジングをやらなければいけないのであれば、これは間違っているという話になるし、そうではなくて市民活動を支援するためのセミナーを実施して、ただ名前がファンレイジングを引きずっているというのであれば、良いテーマかなと思います。特に、ファンレイジングをやらなければいけないという枠ではないということですね。

事務局： 今申しあげましたように、まず7月に、ファンレイジングをテーマとしてセミナーを開催しまして、それに続く3回連続セミナーということで、全部をファンレイジングセミナーとして括ったという形です。

内 田： 分かりました。

座 長： ちなみに、セミナーの際の講演録はどうなっていますか。

事務局： 特に作成はしていません。

座 長： 先ほどのホームページの話で、私の職業柄かもしれませんが、検索するのは、何かを調べたいからですね。せつかく、ファンレイジングやチラシの作り方などのセミナーをやっているので、講演者の営業妨害になってしまうので全てをさらけ出すことはできないかもしれませんが、了解をとってある程度の概要をさポットに掲載すれば、それだけでも検索したときにさポットにつながる可能性があると思います。もったいないのでちゃんと記録を残して、さポットに掲載した方が良いのではないかと思います。講師に依頼をする際に掲載することを前提にすれば、それだけ労せずしてコンテンツが揃いますし、後から新規に作ろうと思うから大変なので、既にあるものにどんどん新しい情報を載せていくという工夫の方が良いかもしれませんね。

他に皆さんの方から、これらの資料に関して何かありますか。

胤 森： フェスティバルについて、色々なブースやステージがあると思いますが、それぞれどれくら

いの人が来てくださったのか、分かればと思うのですが。

事務局： 全体での人数しか集計はしていませんので、各ブースやステージにどのくらい来てくださったかという数字は出していないです。

胤 森： おおよそでも良いのですが。

事務局： 各ブースによっても違いますし、ステージの演目によっても見に来る方が異なるので、何名という数字は出すことができません。

座 長： 今の話だと、フロア全体として見ているから、そのブースに何人来たかはカウントできないということですね。

事務局： カウントはしていません。

胤 森： わくわく浦和区フェスティバルでは、各ブースで大体何人来たか、報告をします。

座 長： 各ブースに台帳を置いて、人が来たらサインやチェックをしてもらい、シールを貼ってもらうという方法もありますね。

榎 本： 人気投票をやっても面白いですね。票が少なかったところはつらいですが、来年頑張ろうという気持ちで、スキルアップすると思います。

内 田： 目安が良いのであれば、参加団体はアンケートを書いているので、来年度からはそこに、どのくらい来たかを書いてもらうようにすれば良いのかなと思います。

小 島： 見沼区のイベントでは、スタンプを各ブースに用意してもらって、後でアンケートを回収してそこに押されたスタンプで、このブースは何件と集計します。

胤 森： どのブースに何人くらい来たのかで、市民の皆さんが今どんなことに興味を持っているのかが分かるかなと思います。

小 島： スタンプも各ブースで考えてもらって、面白いものが出来上がります。以前アートフェスティバルでやったときには、花の形の台紙を作っておいて、各ブースには三角形のスタンプを作ってもらい、押しってもらうということをしました。

座 長： ブースごとにそれでコンテストをやったら盛り上がりそうですね。負担がかからずにできそうであれば、スタンプも確かに良いと思うので、工夫してみてください。

内 田： この来場者数は、フロア全体の来場者数ですね。でもフェスティバル以外の場所、例えば国際交流センターでもイベントをやっていたりするので、目安としては大雑把過ぎる感じでした。ブースごとの来場者数も、目安としてあった方が良いのではないかと思います。

河 野： 資料5の9ページ、フェスティバルの来場者アンケートの回収数が163件というのが気になりました。あまりにも少ないですね。

有 浦： 今回フェスティバルには参加していませんが、以前、子育て支援の団体で参加しました。その時は、来てくれる人が少なくても、相談に来てくれる人がいればいいという思いで参加していました。来場者も、通り過ぎりに見ていく人、寄ってくれる人と様々ですし、団体も、参加の目的に合わせて、シールが10枚しか貼れなくても満足というところもあれば、通り過ぎりに団体名を見てくれるだけでいいということもあると思います。そう考えると、数え方というのはとても曖昧になるのではと思いました。人数的な事も必要かもしれませんが、自分たちの団体としてある程度成果を得たということが大切で、そういうものは反省会やアンケートで出てくると思うので、そんなに人数が必要かなと私は感じています。

三 島： 来場者数で評価をするということではなく、今市民の皆さんが何に興味があるのか、市民の皆さんの意識というのが見えてくるのかなと思います。

座長： 団体の評価にしてしまうと誤解が生じるので、来場者数を団体ごとに集計するのであれば丁寧に行わないといけません。市民の関心がどこにあるのかを把握する目的ということであれば、それはそれで良いと思います。評価となると、団体の意にそぐわない結果になると揉める原因にもなるので。

三島： 参加団体がそれで少なくなると、それはそれでまた困りますね。

内田： 私はフェスティバルに参加したので、その報告も含めてお話をさせていただきます。直営で実施するようになって3年目ですが、色々とスムーズになったなという印象を受けました。後片付けも、1年目は何が何だか分からない、誰か指示を出してくれというような状況だったのですが、今年は皆慣れていて自分たちでどんどん動いて、スムーズにできていたと思います。あと、反省会を実施したのも今年が初めてだったと思いますが、すごく熱心に議論が交わされていました。事務局の報告では簡潔にまとめられていましたが、もっとこうした方が良いのではないかと、来年はこういうことをやった方が良いのではないかと、私たちはこういう工夫をしたというような話がかなり熱心に交わされていたので、全体としては良い形になったと思います。ただ、先ほどのブースごとの来場者数を知りたいという話にも絡みますが、私としてはブースは面白いと思ったのですが、ステージの方は全然面白くなく、自己満足でやっている団体が多いような気がしました。あのような感じであればステージの大きさを小さくしても構わないのではないかと思います。実は私たちの団体が正にそうだったのですが、見に来る方も非常に少なく、知り合いが何人かいるという状況でした。そのような状況であれば、毎年恒例だから行うというのではなく、ステージの位置付けも来年は考えた方が良いのではないかと感じています。

座長： 他には御意見ございますか。

では、議事の事業計画案やホームページ、利用者懇談会での貸出機材について等、今日のこれまでの議論を全部含めて、御意見、御質問があればお願いします。

金子： 座長が言われたように、資料3の利用者からの意見について、1年間で同じような質問がたくさん出ていると思うので、グラフや表にしてみると見やすいかなという気がします。座長と重なる意見ですが、可能であれば、そのような形にしていだければと思います。

内田： 情報の収集及び提供については、なかなか難しいテーマだと考えます。このホームページの情報は、団体が登録をして、それを掲載していくという、基本的には受け身の情報ですよ。そうではなくて自分たちで取材に行くというようなことがあっても良いと思います。フェスティバルの時にブースに来た方とのやり取りの中でも、情報誌がないという話が出ました。自分たちで調べに行き視野が広がるということもあるので、受け身の情報だけでいいのかなというのは気になる場所です。例えば新しい団体ができたらそこにインタビューに行く、東京の方での新しい動きについて聞きに行くということも良いと思います。市民活動団体に新しい情報を提供するというのも必要ですが、まず運営者として知っておくべき情報を集めるということが必要で、受け身だとその辺りが弱いのではないかと感じます。大きな話になりますが、できればもう少し自分たちで調べに行くということをやった方が良いのではないかと感じました。

小島： 情報誌という話がありましたが、印刷して配布するとなるとお金もかかります。例えばホームページに掲載する形で、月々各団体がやったことを持ち寄り、編集して、PDF形式で〇月号とアップすることはできると思いますし、その中に予告も入れられると思います。そのよう

な方法もあるのではないかと思います。

座長：確かに、我々の業界でも紙媒体の雑誌がなくなってきて、全てネットですね。私の場合紙がないと駄目なのですが。ネットであれば、基本的にはお金も、かからないという訳ではないですが安く済みますし、印刷するほど手間も時間もかからないので、もっと積極的に情報をアップするというのは良いですね。ましてや400も団体があるので、団体に協力をしてもらえれば次から次へと情報は出せますよね。確かにそういう仕組み作りも必要だと思います。

他には何かありますか。

有浦：質問ですが、資料3の最後のページに、利用者懇談会での意見で「サポセンの機能の区版みたいなものが必要ではないか」という話もあります。また、各区の市民活動ネットワークとサポセンが有機的に連携できればいいと思っています」というものがあります。サポセンと、各区のネットワークは、実際に何か連携してやっていることはあるのでしょうか。また、ネットワークと直接ではなくて、各区の担当課と連携してやっていることはあるのでしょうか。

事務局：この運営協議会も、各区のネットワークからお一人ずつ御出席いただいておりますが、なかなかネットワークや各区担当課と具体的な連携というところまで至っていないのが現状です。有機的な連携ができて、各区の情報交換や、コラボしてのイベントの実施などにつながればという思いはあったのですが、私どもの力不足でそこまでできておりません。ただ、南ラウンジに区ごとのネットワークのボードを設置し、各区のネットワークが情報発信できる形をとっています。また、各区のネットワークの会合にお伺いさせていただいております。会合を毎月行っている区もあれば、年に1回開催という区もあり、開催状況が異なるため全ての区に伺ってはいたのですが、なるべく出席させていただき、御意見をいただくとともにサポートセンターの情報をお知らせしていきたいと考えています。ネットワーク同士のつながりもこの運営協議会で進められればと考えていますので、その点についても、このようにしたら良いのではないかと御意見があれば、ぜひいただきたいと思います。

有浦：区の担当課はコミュニティ課ですよ。区のネットワークと何かやろうとした場合に、コミュニティ課とあらかじめ連携ができていなければ、難しいように思います。各区でも予定していることがあるので、その情報収集等も行わなければ、予定が重なってしまうこともあると思います。資料を見て、その辺りがどうなっているのかなと感じたので、伺いました。

河野：私も、市民レベルでの話し合いはともかく、区のコミュニティ課とサポセンがどういう連携をとっていて、どこまで協調しているのかと思いました。例えば今日御意見があった、西区と桜区で合同の講座開催という話も、先に行政で話をつめていなければできないと思うので、もっとコミュニケーションがあっても良いのかなという気がします。

永沢：例えば、横浜市は18区ありますが、区民活動センターの方が立派で、そちらの方が登録団体が多く、人が集まる機能になっています。市のセンターは関内にありますが、そこは各区が主導で行っていることのフォローの機能という形です。各区の登録団体自体も数百規模で集まって、集客等も各区が主導で行っています。さいたま市の場合は逆で、サポートセンターがあまりに立派な立地にあり、ここが機能を集約した施設と位置付けられているようですが、市民活動はそもそも、政令市程度の規模になると区ごと、あるいはもう少し小さいローカルな中でのコミュニティの方が重視されます。先ほどのホームページの話ともリンクすると、システムが変えられないという話でしたが、おそらく今現在のものを大きく変えなくても、例えば区の地域情報を主に置きながら全体のポータルサイトにするだけで、当事者意識から、自分のいる町

でどんな団体が何をやっているのかということで閲覧者が増えるという傾向があると思います。市民活動を活発にするのであれば、各区との兼ね合いはありますが、区の機能をもっと強化して、このセンターがフォローするという形に変えれば、展開が大きく変わってきます。川崎市も横浜市とも似たような状況です。

座長： 本庁そのものの役割が違います。さいたま市は本庁機能であるこのサポートセンターがメインになっていて、後から区がついてくるような形なので、だから調整も厄介なのですが。

永沢： 横浜市では1つの区の単独イベントでも、団体の人達が100人以上集まって、皆で意見交換するなど、立派に開催されています。むしろ市のセンターの方が集客力はないです。位置付けが反対かもしれません。

有浦： 私は南区ですが、南区からサポセンまで来ようという人はなかなかいません。どうして行かなければいけないのか、私たちはこっちでやっていけばいいというような意識があるように思います。

永沢： 横浜市などはむしろ、各区で利便性の高い場所に人の体制も含めて充実させるというところにウェイトを置いているので、その差はあると思います。活動をしようと思ったら、身近な区で体制が揃っているということですね。

座長： まず庁内で連携すべきという御意見も当然ですが、役所なので縦割りという問題がありますね。ただ、今出たような議論について、センターが市民活動の支援をするということは分かっているけれど、どこまで出ていくべきなのか、庁内では他課とどう連携をすればいいのかということあまり整理されていません。同じように、例えば内田委員が先ほどお話ししたように、直営でやってきて良くなっても、職員は異動があるので来年はどうなるか分からない、せっかく覚えたのにまたいなくなってしまうというケースがあります。指定管理者の扱いにしても、例えば市民活動の一環として考えた時に、どういう場合にどう使うかという考えを市は持っていないので、場当たりのようになっていきます。そういう意味では、指定管理者を含めて市民活動をどうするかということは、組織間の問題もあるし、NPOとの問題、あとは地域との関係もあるので、本当はどこかで整理した方がいいと思います。今日は貴重な御意見をいただきました。いずれにしろ、次年度になったら、結論が出るか出ないかにかかわらず、皆さんでアイデアを出し合って何らかの形でまとめられればと思っていますので、またその時に議論したいと思います。

他に、資料に関して何か御質問、御意見はございますか。

朝霧： 岩槻区ですが、町興しのために、コミュニティのグループで岩槻城の戦国時代の武将、太田資正が、伝書鳩ではなく、槻丸という名前をつけた伝書犬を使ったということ、漫画にして地元の情報誌「らうんじ」に4ヶ月掲載することになりました。岩槻を知ってもらい、賑やかにするために、その槻丸を大判焼きにして地元を広げるという活動も始めています。岩槻は高齢者も多い地域なので、このような活動で元気をあげたいと思っています。今日はその情報誌を持ってきましたので、皆さん一部ずつお持ち帰りください。

座長： はい、ありがとうございます。それでは他に、今日配布された資料に関して、御意見のある方はいらっしゃいますか。

小島： 先ほど、区のコミュニティ課の話が出ましたが、今までは区のコミュニティ課の管轄の中に、区民会議と市民活動ネットワークがありました。見沼区は市の中で2番目に人口が多く、2番目に面積も広いのに、なぜこんなに市民活動が少ないのか、何か対応を考えてなくては困ると

いうことで、区民会議の中で話をして、例えば区役所ができたけれど遠くてなかなか来ないという人に来てもらうためにロビーコンサートを行うなど、色々考えて実施する中で、団体も連携をしてきました。そういうことがそれぞれの地域で活発にできていれば、少しずつ横浜市や川崎市に近づくことができるのではないかと思います。でも、今年度で区民会議は終わってしまうんですね。

榎 本： 私も桜区の第1期、第2期の区民会議で副会長を務めました。その頃とは位置付けが変わってきました。行政と一緒に協働してやっていこうということで始めましたが、色々な理由があって上手く機能しなかった部分があると思います。この間の会議の時には、まだ新年度も始まっていないので、正式なお話はありませんでしたが。ただ、我々の市民活動ネットワークは残るので、ここがしっかりやっていかないといけないと思います。最初の頃、横浜市南区に見学に行きましたが、市民活動のレベルが違って、本当に活動が活発でした。実は先ほどお話がありました川崎市にも第1回の区民会議として見学に行き、他の地区が先進的にどうやっているのかを見て、やはり我々は勉強不足という認識を持ちました。他の政令指定都市に比べると、良いところを見習いながらも、まだまだ成長過程と感じているので、これからさいたま市を良くしていくために、我々市民レベルで頑張っていく必要があると思います。

小 島： 市民活動ネットワークそのものが各区で活発になるためには、予算的な裏付けも欲しいです。組織を作るためには予算が伴わないとできないですし、事業を立ち上げるにも予算が絡みます。見沼区は区民会議の予算で定期的に行事等を行っていましたが、これは区民会議だからある程度予算が出たので、市民活動ネットワークだとそれが難しいです。予算的な裏付けがないと、今後衰退していくのではないかと懸念を持っています。

座 長： ありがとうございます。他にはどなたか。

胤 森： 私たちの前に置いてある席札ですが、名前だけだと、団体名やどこの区から来ているのかが分からないので、それも書いていただきたいと思います。

事務局： 対応します。

座 長： それでは、議事や報告についてはよろしいですか。

4 閉会

座 長： 最後に、事務局から何かありますか。

事務局： 先ほど岩槻区の朝霧委員からも情報提供をいただきましたが、本日は他に、緑区の加倉井委員と、内田委員からも情報提供があるとお話をいただいています。まず加倉井委員から、お配りいただきましたエコ、エコのニュースレターについて、お願いいたします。

加倉井： 私たちの団体は歴史は短いですが、おかげさまで7年目に突入しました。彩の国埼玉環境大賞優秀賞もいただいて、頑張っていますので、今後ともよろしくお祈りいたします。

金 子： ニュースレターに写真が載っている「龍神・マルコ」はどこにあるのでしょうか。

加倉井： トラスト1号地、御存知ですか。総持院というお寺の近くです。年々大きくなって、今年は17メートルくらいです。マルコはエスペラント語で「湿地」を意味しています。名前を公募して、「龍神・マルコ」と名付けました。このマルコが来てから、私たちの団体には良いことがありました。ぜひ皆さんも見に来てください。

金 子： 長く住んでいるのに、知らなくてすみません。隣に写真のあるカエルは、子どもの頃よく見ましたが。

加倉井： 私たちは、ニホンアカガエルを守るために会を発足させたのですが、去年は16個、その前は20個程卵が産まれていたのが、今年は2個しか産まれませんでした。原因ははっきりとは分かりませんが、アライグマによる被害の可能性が大きいです。皆さんあまり気が付かないかもしれませんが、今年になってアライグマの被害がひどいということを経験して、それを団体のメンバーに伝えたところ、メンバーが燃えて、市から捕獲するカゴを借りて、カゴを仕掛けた日に1頭、次の日にも1頭、計2頭捕まえました。とても可愛い顔をしていました。皆さん、外来種を外に捨てないでください。アカミミガメもそうです。小さいミドリガメがこんなに大きくなります。たぶん、アライグマにとってアカガエルはおいしいので、いたずらしたり食べたりするのだと思われます。専門家の話によると、成体も食べるし、卵もオタマジャクシも食べてしまいます。普段の生活の中では、自然と関係ないように思いますが、実は自然あつての私たちです。40億年の歴史の中で、命がつながって私たちが生まれたので、ぜひ自然に配慮をしていただければと思います。

内 田： 私からは、サポセンフェスティバルの報告のような話ですが、後ろのホワイトボードに、フェスティバルの時に私たちのブースで作成したものを参考までに掲示しました。サポセンの6つの機能について意見を書いていたいたり、クイズをやってもらったりしましたが、具体的にどんなものがあつたか、説明したいと思います。交流の促進については「市民と協働で交流企画をやったらどうか」、情報の収集及び提供については「情報誌を再開してほしい」というような意見がありました。ちなみにサポセンクイズで、現在情報誌は出していると思うか聞いたところ、ほとんどの人が出していると回答しましたが、実はないということを伝えると「え、ないの？」と、あつて当然という反応が多かったです。あと相談については「窓口で専門家、スペシャリスト、コーディネーターがいたら良いのではないか」、学習の機会の提供では「公募で企画を募集してはどうか」「小規模の勉強会を何回も開いてほしい」という意見がありました。その他については「しっかりと指定管理団体になるようなところを育ててほしい」という意見もありました。他にも色々あるので、掲示したものを見ていただければと思います。

事務局： ありがとうございます。

事務局からの連絡事項ですが、来年度の運営協議会の日程については、改めて御連絡させていただきます。また、本日の会議録は、事務局の方で案を作成次第、メール又は郵送にてお送りいたしますので、御確認をお願いいたします。事務局からは以上です。

座 長： それでは、以上を持ちまして、第4回さいたま市市民活動サポートセンター運営協議会を閉会いたします。皆さん、お疲れ様でした。